

French sleeve における 襷の算定方法

Method "Diamond-piece" of French sleeve

鶴 上 美 子

(協力 鷹尾博美)

服飾における近年の傾向として、第1にあげられるものに、より女性らしさが求められてきている。

これにしたがって形態上でのエレガントさが要望されることは言うまでもないことである。

そこでエレガントな表現方法の中の一つとしてあげられるものに French sleeve がある。

French sleeve は Kimono sleeve の中に含まれる種類のものであるけれど、French sleeve の場合、脇下に襷を入れて腕の運動量を出さなければ、着装が困難になるのである。

現在まで French sleeve の制作に当って、襷寸法の算定規準がなく、Fitting の場合、感覚的に処理されていることが殆んどではなかったろうか。

ここにその算出方法についての研究の一つを発表することにする。

先づ第1製図・第2製図と2種類の製図を比較してみ

ると、sleeve の傾向の角度が異ってくると同時に襷の大きさの変化が出てくるわけである。身頃に対して sleeve の角度が大きくなれば、それに正比例して襷の大きさも大になることがはっきりしている。これを写真を挿入して説明する。

この算出方法は、あくまでも標準寸法での算定であるし、襷の算定のみについての説明であるから、着装者の体型により、又デザインによって Fitting の段階に於て変化することになる。

第1製図・第2製図を使用して、半身写真を、正面・背面・側面・襷寸法と4種類の角度から見ると、正面・背面・側面は殆んど変化は見られないのであるが、襷寸法を見ると、腕の運動量に対しての角度を同角度にして襷寸法に変化が見られることが判然としてくる。これ以上の運動量を必要とする場合には、最少限度のこの算定規準を基本として襷巾寸法を増すすればよいのである。

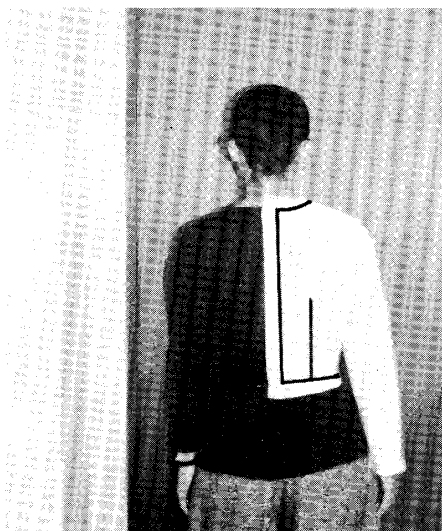
第一製図
《正面》



第二製図
《正面》



第一製図《背面》



第二製図《背面》



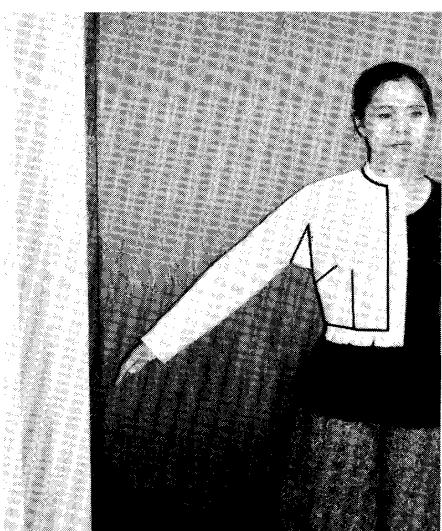
第一製図《側面》



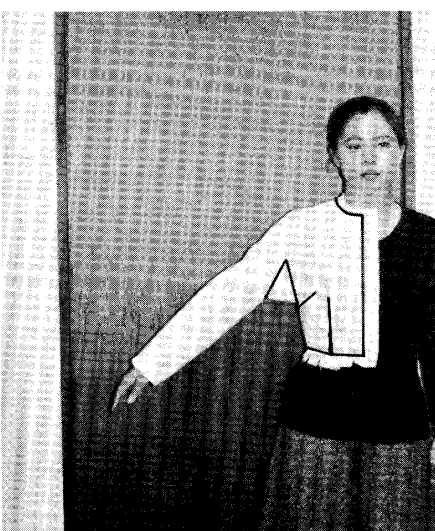
第二製図《側面》



第一製図《裆寸法》

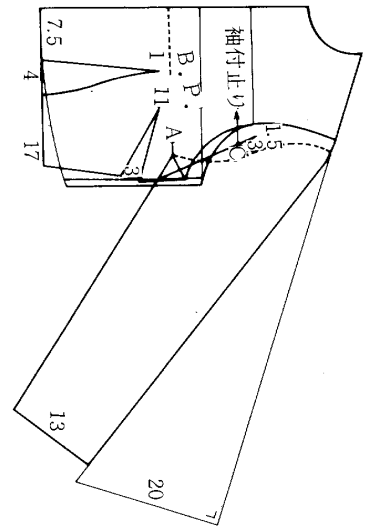


第二製図《裆寸法》



French sleeve における襷の算定方法

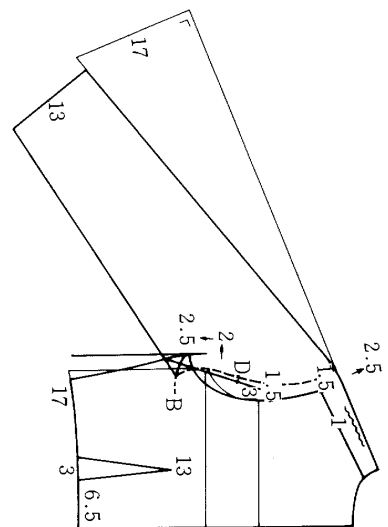
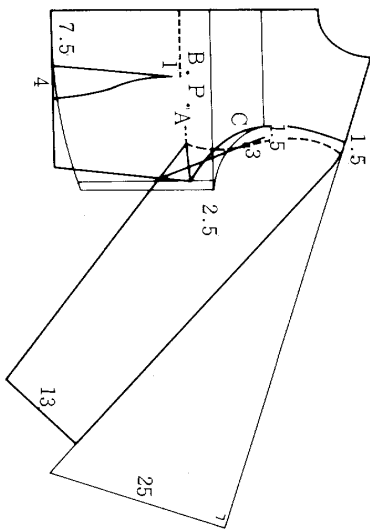
第一製図



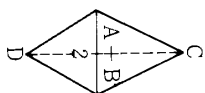
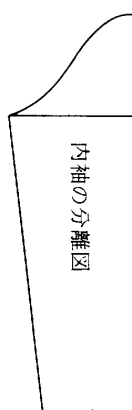
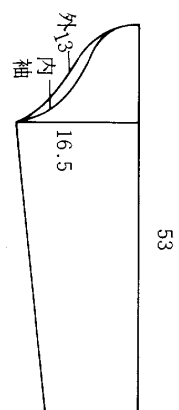
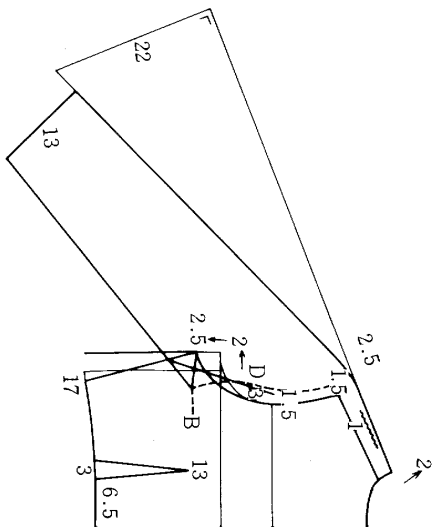
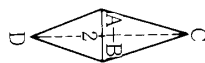
ゆるみ
B ~ 10
W ~ 8
前後の差なし

$$\frac{A+B}{2} = \text{最少限度の襷巾寸法}$$

第二製図



袖



1
13